「海の幸一握り運動について」

－20周年を迎えて－

ＪＦ岩手漁青連下閉伊支部
吉　水　裕　信

1.　地域の概要

ＪＦ岩手漁青連下閉伊支部の会員が暮らしているのは岩手県の山田町、宮古市、田野畑村である。西には北上高地が南北に走り、東は親潮と黒潮が出会う太平洋に面している。（図１）

2.　漁業の概要

外洋に面した地域では、ワカメ・コンブの養殖業、アワビ・ウニ等の採介藻漁業、秋サケを対象とした定置網漁業、サケ延縄漁業、イカ釣漁業等の漁船漁業などが、また山田湾・宮古湾等ではカキ、ホタテガイ養殖業などが営まれている。

図１　JF岩手漁青連下閉伊支部の位置

3.　研究グループの組織と運営

ＪＦ岩手漁青連は、岩手県内の漁村青壮年グループの相互連携と水産技術の向上を図り、漁村の発展に寄与することを目的として昭和38年に結成された。

その下部組織の下閉伊支部は、山田町、宮古市、田野畑村の研究グループ及び青壮年部が相互連携を図り、漁協との結びつきを強めながら地域に密着した試験研究及びグループ活動を通じて、地域漁業の発展に寄与することを目的に活動している。

現在、下閉伊支部の所属団体は６団体で、会員数は238名である。（表１）

下閉伊支部の主な活動内容は次のとおりである。

(1) 下閉伊地区漁村青壮年活動実績発表会の開催
(2) 岩手県漁村青年・女性漁業者交流大会への参加
(3) 各種研修会への参加
(4) 生産技術及び情報の交換
(5) 海の幸一握り運動

表1 JF岩手漁青連 下閉伊支部

市町村	所属グループ名	代　表	会員数
田野畑村	田野畑村漁協青年部	鈴木 親寿	24名
宮古市	田老町漁協青年部	吉水 裕信	19名
	宮古漁協青壮年部	佐々木 誠	68名
	重茂漁協青年部	坂本 西南	106名
山田町	大沢漁協青年部	阿部 豊	9名
	山田湾漁協漁船漁業青年研究会	阿部 誠	12名
計	6団体		238名

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

昭和62年当時は、全国的には200海里以降の国際漁業規制、沿岸漁業資源の減少、水産物価格の低迷、輸入水産物の増加、漁業従事者の高齢化、後継者不足と、浜を取り巻く環境は、極めて厳しくなっていた。また、当地区においても、ワカメ・コンブの病虫害、ホタテガイやサケの価格の低迷、アワビの漁獲量の減少など、明るい話題がなかった。このような背景から、当支部の会員の漁協青壮年部及び研究グループの活動も不活発になりがちであった。

そこで、暗い雰囲気を打開するために、支部の会員皆で、何かやってみようということで、支部役員会でいろいろ話し合った。その中で、一つの提案があった。自分達が生産しているワカメ、コンブ、ホタテガイ等の海の幸を一握りずつ持ちより、人生の先輩である老人ホームの入居者の方々に、感謝の気持ちを込めて贈ることにしてはどうかというのである。

「漁業環境を取り巻く沈滞ムードを吹き飛ばし、また、下閉伊地区漁業者の意気を世に知らしめると同時に、漁業者の結束を固める。」ことを趣旨として、会員が生産物を一握りずつ持ちより、それを施設のお年寄りに年1回贈呈することを、昭和62年度の下閉伊支部総会に提案したところ、満場一致で承認された。

早速この年から活動を開始した。

5. 研究・実践活動の状況及び結果

(1) 1年目（昭活和62年）

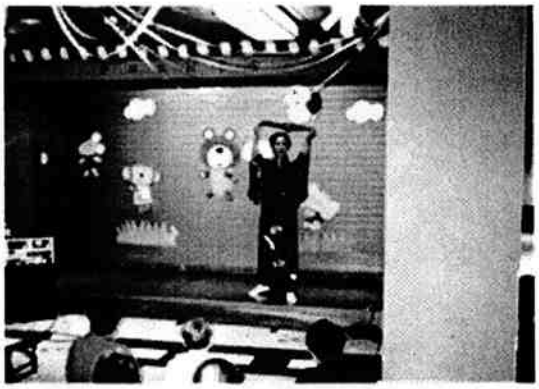
活動を始めた昭和62年は、はたしてどのくらいの生産物が集まるのか、また、施設で受け入れていただけるかなど不安があったことから、あまり欲張らず、特別養護老人ホームである宮古市崎山の慈苑と山田町の平安荘、それから養護老人ホームである宮古市津軽石の清寿荘の3会場で開催することとした。内容は、会員各自がワカメ、コンブ、ホヤ、ホタテガイ等の生産物を一握りずつ持ち寄って老人ホームのお年寄りへ贈呈するほかに、浜には芸達者が多いことから海で鍛えた声等余興を披露した。少々押しつけがましい芸能披露ではあったが、これが老人ホームの方々に大好評であった。

(2) 2年目（昭和63年）

この活動が新聞やテレビで紹介されるなど、予想外に反響が大きかったことから、これに気を良くし、もっと活動範囲を広げようということで、岩泉町の特別養護老人ホーム百楽苑を加え4会場で活動した。また、この年は市町村関係者の手品も披露された。

(3) 3年目（平成元年）

支部役員から「浜では父さんと母さんは仲良く仕事をしているが、青壮年部及び研究会と婦人部（現在の女性部）が一緒に活動する機会はほとんどないので、日頃の活動の目的を越えて行動をともにすることにより、活動の輪を広げることができるのではないか。」との意見が出された。そこで、女性部の皆様に提案したところ快く賛同していただき、歌や手踊り、寸劇などを披露して老人ホームのお年寄り達にも大変喜んでいただけた。この後も、女性部は毎年参加している。



(4) 7年目（平成5年）～

田野畑村の特別養護老人ホーム寿生苑を加え5会場で活動するようになった。

(5) 10年目（平成8年）

10周年という節目の年を迎え、管内漁協、女性部、県漁連、市町村、県等の関係者が集まり記念式典を開催した。

(6) 14年目(平成12年)～

活動の場はさらに広がり、宮古市田老のふれあい荘が加わり、6会場で一斉に活動するようになった。

(7) 15年目（平成13年）

15周年を迎え、ささやかながら参加団体の関係者が集まり慰労会を開催した。日頃活動していても関係者が一堂に会することはほとんどなかったので、和気あいあいと懇談し、そして、今後の活動に向け関係者が団結を強めた。

(8) 18年目（平成16年）

平成16年12月には、社団法人「小さな親切」運動実行本部から、海の幸一握り運動の地道な活動が認められ「小さな親切」実行章が授与された。（図2）

図2　授与された実行章

(9) 20年目（平成18年）

そして今年度、20周年を迎え、管内漁協、女性部、県漁連、市町村、県等の関係者が集まり祝賀会を開催した。この運動を、30年、40年、50年と続けていくことを誓い合った。

現在は、毎年6月頃に、6つの会場で一斉に実施している。施設に近い最寄りの青壮年部、研究グループ、女性部が対応するようにしているが、青壮年部などの組織がないところへは、下閉伊支部をあげて応援に駆けつけるような体制をとっている。（表2）

表2　現在の役割分担

訪問施設			研究グループ	女性部
所在地	施設名	入所者数		
田野畑村	寿生苑	60	田野畑村漁協青年部	田野畑村漁協女性部
岩泉町	百楽苑	50	〃	小本浜漁協女性部
宮古市	ふれあい荘	40	田老町漁協青年部	田老町漁協女性部
	慈苑	110	宮古漁協青壮年部	宮古漁協女性部
	清寿荘	50	重茂漁協青年部	重茂漁協女性部
山田町	平安荘	100	大沢漁協青年部	山田地区漁協女性部
			山田湾漁船漁業青年研究会	

6．　波及効果

(1) 漁業者同士の結束から奉仕活動のすばらしさへ

実施当初は漁業者同士の結束を固めることに主眼をおいていたが、回を重ねるにつれて、お年寄りの笑顔が私たちに奉仕活動のすばらしさを教えてくれた。

(2) 先人達が残した漁業、漁村を守る大切さ

私達若い漁業者がお年寄り達への慈しみの気持ちを持つことが、先人達が築いてこられた漁村を、漁業を、大切に守っていかなければならないという自覚に結びついてくるものだと実感するようになった。

(3) 1年が20年に、そしてこれからも・・・

海の幸一握り運動も皆様の協力のおかげで20周年を迎えることが出来た。今では年に1回なくてはならない年中行事のようになっている。老人ホームの方々も、毎年この時期になると、私達の訪問を楽しみにしてくださっているようである。私達も、お年寄りの楽しんでくださっている姿はとても励みになり、「ありがとう御座いました。来年も是非来て下さい。」と言われると、来て良かった、来年も頑張ろう！という気持ちになる。

(4) 三者の交流の場

漁村の青壮年部と女性部そしてお年寄り、この三者が同時に集まる唯一の交流の場として、今後もこの運動を大切にしていきたいと思う。

2006年（平成18年）6月25日（日曜日）

浜の先輩に元気20年

高齢者と交流継続

海の幸贈り芸能披露

図 3　地元紙（岩手日報）に掲載された記事（H18.6.25）

7．今後の課題や計画と問題点

(1) 長く続けること

漁業を取り巻く環境がますます厳しくなる中、一握り運動がせめて浜の明かりとなるように、当支部、各漁協女性部の方々と協力して、今後も末永く続けていきたいと思う。

(2) 海の幸の確保

最近は、魚の資源の減少やホタテガイの貝毒等により自分達が漁獲した魚や、養殖した貝が確保できなくて、お金を出して買うような事態も生じてきている。海の幸の内容（前浜の原料を使用した塩蔵品、加工品等の購入）を検討する必要が出てきている。

(3) 活動の輪の拡大

漁協青壮年部、研究グループの会員から始めたこの運動も、今では、各漁協女性部の皆様の参加、協力をいただいている。また、県漁連、市町村、県の関係者等の協力も得られるようになってきた。この場をお借りしてお礼を申し上げるとともに、この「海の幸一握り運動」の輪が全国の各浜に広がることを期待して、この発表を締めたいと思う。